

無敗の
三冠馬

コントレイル

The Undefeated Triple Crown Winner

負けを知らない馬の“本気”

1984年シンボリルドルフ、自身の父である2005年ディープインパクトに続き、無敗で三冠を達成したコントレイル。伝統と格式を重んじるホースマンが送り出した史上3頭目の無傷の三冠馬。偉業達成の道筋を振り返る。

石田敏徳 = 文
text by Toshinori Ishida



父の背中越しに競馬を観始めた数十年前、覚えての馬柱で無敗の馬を見つけると、クラスの高低を問わずにその馬を応援していた記憶がある。いつまでも、どこまでも、勝ち続ける馬を見てみたい――。小学生の頃に抱いた素朴な願望は、本命馬の不安材料を躍起に探して穴馬券を買い漁るようになった今でも、心の片隅に持ち続けている。一度も負けない馬への憧れとリスペクト。それは競馬を愛する人に共通する心情だろう。

父仔2代の無傷三冠制覇という空前の偉業をかけて菊花賞に挑むコントレイルは、そんな私の目に、重箱の隅さえもつきやうがない。存在と映った。3000メートルの距離が未知の領域であることは確かでも、絶対能力が違いすぎる。これまでと同様、三冠の最終関門も涼しい顔でクリアして、次のステップへ進んでいくものと思っていた。だから最後の直線、アリストテレスと熾烈な追い比べを繰り広げた場面では思わず声なき声が出た。え、嘘でしょ、この馬がここで負けちゃうの？ 無傷の三冠制覇を応援する気持ちより、驚きのほうが優っていた。それぐらい、接戦になったこと自体が予想外だったのだ。

しかしコントレイルは勝ち切った。胸を撫で下ろした私は場内から沸きあがった拍手を耳に、検量室の取材へ向

かおうとした。そのとき、矢作芳人調教師の姿が遠目に見えた。彼は不思議な表情を浮かべていた。三冠の荣誉に輝いたばかりのトレーナーは、どこか呆然としているように思えた。

適性外の距離を目指す上でも特別なことはしなかった

日本の競馬にクラシックのレース体系が整備された1939年以降、「無傷の三冠制覇」をかけて菊花賞に挑んだ馬はコントレイルが4頭目になる。過去の3頭のうち、84年のシンボリルドルフ、2005年のディープインパクトは負け知らずのまま、三冠の頂に君臨。対して唯一、涙を吞んだのが92年のミホノブルボン（2着）である。「スピードは天性の才能。しかしスタミナは後天的な努力で補える」という信念を持つ戸山為夫調教師が、明らかにマイライタイプといえた快足馬に距離の壁を乗り越えさせるため、ハードな調教を課して鍛え上げたエピソードはよく知られている。

当時、菅谷楨高厩舎で持ち乗りの調教助手を務めていた矢作芳人調教師は、担当馬のランディーバーンをその菊花賞に出走させていた。戸山調教師の持論に触発された彼は、坂路調教の本数を増やす自分なりの「特訓」を積んでレースに臨んだものの、結果は14着。その後、同馬は屈腱炎を発症し、引退

に追い込まれた苦い経験を持つ。

コントレイルにとって3000メートルの菊花賞が「ベストの舞台ではない」とは、矢作調教師をはじめ、陣営に共通する認識だった。ただ今回、適性外の長丁場を目指すにあたり、特別なメニューを組むことはなかったという。

「これまで、距離を意識する余り普段のやり方を変える調教をして、あまりいいことはなかった。馬に申し訳ないことをしたと悔やんだレースも多々あります。それにこの馬は負けていないわけです。調教の中身は馬の成長にあわせてブラッシュアップしていく必要はありますが、負けていないんだから

幹の部分を変える必要はない。そう思えるようになったのは、自分が重ねてきた経験が大きかったですね」

夏に放牧先の大山ヒルズ（鳥取県）を訪ねたとき、齋藤慎ゼネラルマネージャーも同様の話をしてくれた。無用な「力み」はなく、自然体で臨む。陣営のスタンスも一致していたわけだ。

その大山ヒルズと連携して、春から継続的に取り組んできた「バランスよく走らせる」というテーマにも、矢作調教師は確かな手応えを感じていた。2歳時のコントレイルにはハミに頼って走る面があり、これは前輪駆動にたとえられる。しかし福永祐一騎手の指摘を受け、フォームの改善に取り組んだ結果、皐月賞からは後駆もしっかり使う四輪駆動の走りに変わってきた。人間の側が努力と工夫を重ねても、なかなか実を結ばないことも多いフォームの改善だが、トレーナー曰く、それができるのがコントレイル。賢くて呑み込みが早い馬は、もっと楽に、もっと速く走れる術を体得していった。

「3000メートルのレースを使うにあたって最も重要な折り合いをスムーズにするためには、坂路のかわりに平地の調教を増やすなどのやり方もあります。しかし調教内容云々ではなく、バランスを整える、バランスよく走らせることによって馬は折り合いがつくんだと、僕の考え方も変わってきました」

CONTRAIL The Undefeated Triple Crown Winner

M.Seki



ホープフルS以来約10カ月ぶりにファンの前でパドックを周回(写真先頭)。終始落ち着いた様子を見せていた

秋の始動戦を楽にクリアし
在厩調整で目標へ

こうして迎えた秋の始動戦・神戸新聞杯は馬群に包まれて少し窮屈な運びになったものの、直線に向いてスペー
スが開くとたちまち抜け出して楽勝。
道中の折り合いもスムーズで、福永騎
手からは「夏を越してさらに走りのバ
ランスがよくなった」とお墨付きを得
た。レース後、矢作調教師は大山ヒル
ズでのリフレッシュを経て、次の目標
へ向かっていったこれまでと違い、今
回は在厩調整となることを指摘。「ス
イッチを入れすぎないよう、さじ加減
に注意したい」と気を引き締めていた
が、それも杞憂に過ぎなかった。

「1回走ればしばらくレースは走らな
いことを、馬は完全に理解していた。
この賢さを信じてあげられなかったこ
とを申し訳なく思ったぐらいです」

在厩調整でもリラックスして過ごし、
福永騎手が騎乗して1週前追い切りを
かけると、いつものようにスイッチが
入った。引いたのは内めの枠順（2枠
3番）、馬場の極端な悪化も避けられ
る見通しとなり、不安材料が次々に消
えていく。もちろん自信はあった。
「本質的には中距離馬でも、適性の違
いを力の差で乗り切ってしまうだろう
と。その意味ではシンボリドルフに
イメージを重ねていましたね」

T.Mori



残り200mあたりからはコントレイルとアリストテレスの一騎打ちに。
長い追い比べとなったが、コントレイルは一度も抜かせなかった

向正面に差し掛かると表面化する。斜
め後ろに張り付いたC・ルメール騎手
のアリストテレスにプレッシャーをか
けられ、闘志に火がついた馬は前進気
勢を露わに行きたがった。
当日は爽やかな好天に恵まれたもの
の、開幕週から雨に祟られ続けた芝コ
ースは例年になく傷みが目立っていた。
先導役を務めたキメラヴェリテの松若
風馬騎手は、スタンド前では馬場の内
めを大きく空けて進み、1コーナーで

T.Mori



2頭が並ぶ形でゴール。コントレイルがクビ差先着して三冠を達成し、その瞬間、場内からは拍手が沸き起こった

内ラチ沿いへ誘導。これに続いた後続
の馬群がバラけていたことも災いした。
「反応がいい馬ですから、馬群のスペ
ースを見ると余計に前進氣勢が強くな
ってしまふんです。向正面では一番、
馬がエキサイトしていました。という
より、うまくリラックスして走らせて
あげられなかった」（福永騎手）
行きたがる馬を何とか抑え込んで進
んだ福永騎手は、蓋をしようとしたル
メール騎手の機先を制し、4コーナ
ーで馬群の外へ持ち出す。しかし中盤ま
での消耗が響き、手応えにはいつもの
余力が残っていなかった。スムーズに
折り合ってレースを運んできたアリス
トテレスがそこへ襲い掛かり、熾烈な
追い比べが幕を開ける。
「直線に向いて左手前に替えてから、
最後の100mでもう一度、右手前に
替えているんです。そんなことは今回
が初めて。馬もよっぽど苦しかったん
でしょうね」（矢作調教師）
それでも、初めて本気を振り絞った
コントレイルは頑として先頭を譲らな
かった。ルメール騎手によれば「ずっ
とアタマ差、クビ差ぐらい前に出られ
ていた」という。「あと100m走
っても着差は変わらない」と評された
シンボリドルフの菊花賞（2着ゴー
ルドウェイトとの着差は3/4馬身）と同様、
どこまでも抜かせない強さを見せつけ
たコントレイルが、アリストテレスの

Y.Hatanaka



各馬が内を空けて進み馬群はややばらけた展開に。コントレイルは1周目スタン
ド前を7番手で進み、そのすぐ外にアリストテレスが続いた

賢くて呑み込みが早い馬は、もっと楽に、
もっと速く走れる術を体得していった。

CONTRAIL
The Undefeated Triple Crown Winner

なった。
終始、力みながら走るも
抜かせない強さを見せつける

3000mの長丁場に待ち受ける最
初の関門は、1周目の3コーナーから
直線にかけてだ。坂の下りで勢いがつ

き、通常時なら大歓声に迎えられるス
タンド前を、いかに馬と呼吸を合わせ
て乗り切れるかが、まずは大きなボイ
ントになる。

15年前、父は激しく折り合いを欠い
てしまった序盤の関門を、7番手につ
けたコントレイルは大過なく乗り切っ
たように見えた。しかし福永騎手が「序
盤から終始、馬が力みながら走ってい
た」と明かしたように、傍目より囁み
合っていないかった人馬の呼吸の乱れは、

JRA



スムーズに4コーナーを回り外目に進路を確保。アリストテレスのルメール騎
手はここで手綱をしごき、外からコントレイルに食らいついていった

Y.Maeda



1週間前のデアリングタクトと同様に大きな三冠達成フラッグが馬場に広げられ、無敗の三冠の偉業を祝した

なるなんて、調教師試験に落ち続けていた頃の僕からすれば夢のまた夢でしたから。現実感を持ってなくて呆然としたし、色々なことが走馬灯のように浮かんできました」

シンボリルドルフが無傷の三冠制覇を達成した84年に栗東へ来て、厩務員として働き始めた矢作調教師は14回目の受験で調教師試験に合格。05年に開業したとき、斜め前の厩舎にはディープインパクトがいた。「取材攻勢、大変そうだなあ」と他人事のように眺める一方、憧れも抱いていた新人トレーナーは開業16年目の今年、「自分にとっては特別に重たいもの」と表す三

S.Suzuki



厳しいレースの中で見せた「どこまでも抜かせない強さ」。さらなる進化に期待が膨らむ。

新たな戦いが始まるコントレイル。レースの11日後には次走がジャパンCとなることが発表された

冠の栄誉を手中に収めた。

予想外の接戦にはなった。しかしタフな馬場で終始、力みながら走っても「絶対に抜かせない」勝負根性を発揮。無傷で成し遂げた三冠制覇の本身は非常に濃く、さらなるステップアップにも期待が膨らむ。

「レース後も馬体のダメージはほとんどありませんでした。獣医さんによれば唯一、『心臓は今までで一番疲れている』とのことでしたが、そこまでフル回転させたわけですから『鍛えられた』ともいえる。適性外のレースを走らせて馬にはしんどい思いをさせてしまったけれど、今回の経験は大きな糧になると思います」

その後は大山ヒルズへ放牧に出されてリフレッシュ。驚異的な回復力と馬の適性、ファンの期待も踏まえてオーナーサイドと協議した結果、次走はジャパンCと決まった。デアリングタクトはすでに参戦を表明、アーモンドアイの出走も決まり、このままいけば歴史的なビッグマッチが実現する。

「三冠も重いですが、僕の中では、無敗」ということの価値にも同等以上の重みを感じています」とも話していた矢作調教師。無傷と無傷、三冠馬と牝馬三冠馬の航跡がいよいよ交わるジャパンCでは、本気の走りを経験して一段と進化を遂げたコントレイルの姿が見られるかもしれない。

S.Suzuki



コロナ禍で関係者にも競馬場への来場制限が続く中、“チーム・ノースヒルズ”を率いる前田幸治氏は三冠のうち菊花賞が唯一の現地観戦だった

無敗の三冠達成までの足跡

年月日	レース名	競馬場	距離(km)	馬場	騎手	斤量(kg)	着順	人気	タイム
2019. 9.15	新馬	阪神	芝1800	良	福永祐一	54	1	1	1:48.9
11.16	東京スポーツ杯2歳S(GⅢ)	東京	芝1800	良	R.ムーア	55	1	1	R1:44.5
12.28	ホープフルS(GⅠ)	中山	芝2000	良	福永祐一	55	1	1	2:01.4
2020. 4.19	皐月賞(GⅠ)	中山	芝2000	稍重	福永祐一	57	1	1	2:00.7
5.31	日本ダービー(GⅠ)	東京	芝2400	良	福永祐一	57	1	1	2:24.1
9.27	神戸新聞杯(GⅡ)	中京	芝2200	良	福永祐一	56	1	1	2:12.5
10.25	菊花賞(GⅠ)	京都	芝3000	良	福永祐一	57	1	1	3:05.5

CONTRAIL

The Undeclared Triple Crown Winner

追撃をクビ差に抑え込んだところがゴールだった。

適性外のレースを走った経験は今後の大きな糧になる

父仔2代の無傷三冠制覇は世界的にも類を見ない快挙である。空前の偉業が実現した要因のひとつに、矢作調教師は生産者・ノースヒルズの「戦略」を挙げる。良血の牝馬を1歳のセールで購入する取り組みに加え、日本で競走生活を送ったそのロードクロサイトが未勝利で引退、繁殖入りした後、仔出しのよさを見定めてから3年目にディープインパクトを配合したこともそうだったという。

「いくら良血といっても、お母さんは未勝利馬ですからね。あのタイミングでディープを付けるのは、なかなかできることではありません。どんなに努力を重ねても、これだけの馬には巡り会えない確率のほうで圧倒的に高い競馬の世界ですが、ノースヒルズさんの確たる戦略のもとにこの馬が生まれてきたことも確か。まして僕はお母さんから関わらせてもらったわけですから、本当に感謝しています」

レースの直後、呆然としているように見えたことについても尋ねてみた。彼はそのときの胸中を「夢を見ているみたいだった」と振り返った。

「無傷の三冠馬のトレーナーに自分が

Y.Maeda



三本の指を立てながらほっとした表情で引き上げてきた福永祐一騎手。この勝利でクラシック通算10勝も達成した